

ケア・カウンセリング通信59号・ ON LINE 総会報告 (2022/10 /13)

2022年 ON LINE 第23回総会／プレゼミ&全国研修大会準備号

テーマ：ケア・カウンセリングと深層演技

～ 人間関係の原点からケアを考える ～

代表理事 品川博二 臨床心理士・公認心理師

<巻頭言> ON LINE 研修の展望

2022年の我が国の状況は、コロナ禍が一定の落ち着きを取り戻し、外国からの訪問制限の緩和もなされました。しかしながら、まだまだ潜在化する深刻な事態の警告を発する学者も少なくありません。私たちの協会も、2020年2月以降、通常の対面研修を自粛しON LINE 研修に事業を移行してまいりました。確かに一定数の先進的な会員の参加を得ておりますが、全体としては対面研修時の勢いは得られておりません。

端的に申しますと、ケア・カウンセリングにON LINE 研修は「相性が悪い」側面があるのです。ケア・カウンセリングにおける「気づき」（自己概念への統合の志向性）は、「いま、ここで」のリアルな対人場面の中での心的力動（サイコダイナミックス）の働きに負っている側面が大きいです。どうしても、ON LINE 研修では、リアルな「気づき」より、知的な関心とその理論的枠組みのマッチングという側面が大きくなります。あの対面の研修会場での「生の手応え」管を得ることが少ないことは否めません。

また、ON LINE 研修には、世代的な抵抗感も少なくありません。ケア・カウンセリング協会の中心世代も、すでに50代・60代を迎え、PCやネットワーク通信の手順に不慣れな方もいらっしゃいます。通常の段取り通りに、手続きが進んでいる時は良いのですが、いったんアクセスに問題が起こると、そこからどう解決するか、その途端に途方に暮れてしまうのです。

「3回アクセスしてダメだったので、会員を辞めます」という、残念なメールが事務局にくると、何とも言葉を失います。その会員さんは、これまでは「家を出て、電車にのって2時間かけても、研修会場で先生や皆の顔を見れば満足！」されていた方だったのです。そんな彼女は、臨床では、患者・家族と真摯なケアリングに取り組んでいます。そして確実に心身に疲弊を被っているのです。

ケア従事者が、本腰を入れてケアに取り組めば、必ず感情労働のプロセスで疲弊するのは必然です。感情労働は今回の総会テーマである「深層演技」によってサポートされなければ、確実にケア従事者のストレス体験になってしまいます。

その為、少なからずのケア従事者は、長年の経験から身に着けた「表層演技」で、日常のケア業務を熟（こな）している状況にあるかもしれません。しかし、それでは本当の、「元気の出るケアリング」にはなりません。

日本ケア・カウンセリング協会のモットーは、「全国のケア従事者を元気にする」こと！この一点です！そして協会は学会でもなく、親睦会でもありません。協会の目的は、すべてのケア従事者に「自他共助の連携」（人間関係）を提案し、そのささやかな実践を歩む「運動体」です。まだまだ予断を許さぬコロナ禍の状況ですが、目的を見失わず、現象流されず、乗り越えて行きたいと思います。

<ケア・カウンセリングと深層演技>

今回の総会テーマである深層演技 **deep acting** とは、その本質の普遍性にもかかわらず、必ずしも「ケア業界」では一般的な用語ではありません。看護の領域では、「演技」という言葉のニュアンスを「嫌って」、深層演技を「深層適応」と置き換えて使われているようです。

もともとは、深層演技という術語は、ロシアの演出家・演劇理論家コンスタンティン・スタニスラフスキー（Constantin Stanislavski）が主張した「自己誘発した感情を自発的に表現する」演技法です。それまでの演技法は、「他者に対して役割を演ずる」表層演技でしたが、深層演技は「自己に向かって役割を演ずる」あるいは「その役割を自己が生きる」と説明されます。

表層演技は、社会的役割関係において「望ましい役割」を「演ずる」適応機能でした。これに対して、深層演技はその役割演技の適応機能を越えて、新たな交わりや絆を拓く為に、改めて自身の「生きる」ことを問い直す試みでした。

現実的な人間関係は基本的に表層演技で構成されており、表層演技を身に着けることがそのコミュニティーに参加する「一人前」のメンバーの証です。しかしながら、私たちは、押し付けられ組み込まれた表層演技の森のなかで、自分自身を見失っているのかも知れません。そんな私たちが、リアルな自己を回復する為には、人間関係における**深層演技の意味を理解する必要がある**のです。

表層演技は、他者や社会との関係で求められる「望ましい役割演技」を「演ずる」ことでした。表層演技が機能している限り、私たちは人間関係あるいは社会に安定して適応できます。しかしながら、人生には様々な困難な問題が自分に迫り、乗り越えることに絶望してしまうこともあります。あれこれ工夫をしたのにうまく行かない。何とかできないかと悩みながら希望が見えません。そんな時、私たちは孤独と不安に陥ります。その究極が「成す術もなく、切なく願う」という状況でした。深層演技はそのような困難な状況から、私たちが再び「生きる」時に、動き出す心の働きなのです。

深層演技の機能は、自身の「生きる」力と対峙し、その応答を他者に向かって発信することにあります。深層演技は、自分に閉じ込ってしまう自閉的な自問自答ではありません。深層演技の自身との対話は、他者との応答に繋がるのが肝要です。その時、あなたはもう孤独ではありません。これらの深層演技の呼びかけは、「人と人とを繋ぐ関係性の機能、心理的な共同性の根拠地」という意味として、私たちのケアリングの本質（間主観性）を啓く働きかけなのです。

深層演技の理解は、11月19・20日の総会でシェアリングしましょう！

理事会議長／代表理事 品川博二

2022年第23回総会・プレゼミ 実施要項（仮）

実行委員長	相澤久美
総合司会	勢司博之

<プログラム>

11月19日 総会プレゼミ「深層演技を理解する」

①基調講演「深層演技とは何か！」14:00～16:00

講師 品川博二 代表理事

②シンポジウム「深層演技って、何なのさ？」

15:00～17:00

杉崎チズ子 老健相談員

松倉理江 看護管理者

今川恵子 精神科看護師

魚見照子 看護師

菊池聡美 施設相談員

八木理恵 施設介護士・介護支援専門員

③トーク・イベント 19:00～21:00

「深層演技とケアの本質／「心の四つの窓」

品川博二 代表理事／臨床心理士・公認心理師

山下明子 香川大学医学部臨床心理学科助教

三瓶真理子 公認心理師／臨床心理士

井口敦子 精神保健福祉士・公認心理師

11月20日 総会&全国研修大会

①総会特別講演 10:00～11:50

「松戸行方不明女兒家族の深層演技」

品川博二 代表理事

- ②総会 13:00~14:00
③総合シェアリング 14:30~16:00
「ケア・カウンセリングと深層演技」
小グループによるシェアリング

*以上、敬称略。

開催方式：ONLINE 開催（Zoom）

参加費：11月19日20日（2日間） ￥10,000
11月19日 プレゼミのみ ￥6,000
11月20日 総会のみ ￥5,000
（非会員は+1000円）

*総会・プレゼミは、研修チケットは使用できません。

実習単位

「総会プレゼミ」および総会日の「全国研修大会」は実習科目です。
実習単位数は、「ケア・カウンセラー」登録時に所定の単位数が必要です。

- ①プレゼミ+総会=実習15単位（ワークショップ扱い）
*「認定ケア・カウンセラー」登録に、ワークショップ単位が必須です。
→ 総会、行動形成法、その他のワークショップ。
*プレゼミと総会の両参加のみワークショップ扱いの加算登録。
- ②プレゼミのみ参加（実習5単位）
③総会のみ参加（実習5単位）

<2022年度ケア・カウンセラー試験の延期>

*ケア・カウンセラー試験は、いまだ予断を許さぬコロナ禍の現状を考慮し、
来年総会まで延期といたします。なお、受験資格等の諸条件については、
期限等の制約を、2020年4月にさかのぼって凍結します。

*ケア・カウンセラー受験希望者は、2023年4月以降、事務局まで
申し込みください（電話でなくメールでお願いします）。

<参加申し込み>

以下のURLまたはQRコードから、必要事項をフォームに入力しお申し込みください。 申込期限 11月15日（火）

<https://forms.gle/UXrESdbgUgD43MVJ8>

<お支払い方法>

- ①協会郵便振込口座 00110-7-147466 日本ケア・カウンセリング協会
②みずほ銀行（池袋）普通 4061177（特非）日本ケア・カウンセリング協会



2022年11月20日

特定非営利活動法人日本ケア・カウンセリング協会

第23回 ON LINE 総会理事会報告（仮）

理事会議長（代表理事）・品川博二

<基本方針>

コロナ禍に関する多くの規制や措置の多くは、現在、解除および緩和されています。しかしながら、未だに予断を許さぬコロナ禍の潜在脅威の下、協会の活動形態として、少なくとも2023年前半までは、ON LINE 研修を中心とした、ケア・カウンセリング事業を引き続き継続してゆきます。

<総会議決案件>

議案1、ON LINE 研修事業の拡充と会員への情宣活動を充実する。

- ① 当面は、ON LINE 研修に特化して、協会活動を継続して実施する。
- ② 既存会員の、ON LINE 研修参加への促進プログラムとして、本部の「導入プログラム」とエリア単位での、グループセッションを企画する。
- ③ 既存会員のON LINE 参加を容易にする為に、「導入ガイド」のプログラムを準備する。

議案2、オンデマンド研修を活用したコミュニティ・グループを検討する。

本年5月より配信中のオンデマンド講座を活用して、各エリアで独自の学習グループを企画運営する。各エリアにおける認定講師やケア・カウンセラーがリーダーとなって運営。当面はON LINE で行い、可能となれば、対面学習で実施（単位申請可）。

議案3、「コンプライアンス研修」を対外展開する。

- ① 会員所属の病院・施設に協会「コンプライアンス研修」のプログラムの紹介を働きかける（リーフレット作成中）。
- ② 関連団体および一般企業への「コンプライアンス研修」を宣伝する。

議案4、「次世代」ケア従事者のON LINE 研修への参加促進キャンペーン

ON LINE 研修の受講生を拡大する為に、20～30代を対象に無料新人募集キャンペーンを実施する。

→ ON LINE 講座へ会員が新人を紹介した場合、2回招待とする。

議案5、今年度決算書・次年度予算案

* 予算案、決算書は別紙報告

<総会への報告>

報告1、オンデマンド・プログラム「人間関係の原点」が専門講座として開講

本年5月より開講のオンデマンド講座とは、会員の皆さんが、各自の都合に合わせて、「好きな時間に何度でも」視聴できるON LINE 研修のシステムです。これまで、参加を見送っていた会員には、より自由にプログラムに参加できるようになりました。今後とも、より視聴しやすいプログラムの開発に努め、また各エリアでの自主研修グループの企画などで、協会活動を下支する実践プログラムとして期待されます。

報告2、(公社)日本臨床工学技士会「臨床実習指導者研修会」WEB 定期開催

2023年1月以降、全国の臨床工学技士の臨床指導者を対象に、厚労省指定の定期研修が今後数年に渡り開催されます（ZOOMによるリモート研修）。この研修の講師に、協会の品川講師および6名のケア・カウンセラーの皆さんが、コミュニケーション研修の指導にあたることになりました。臨床工学技士の皆様には、ケア・カウンセリングのコンセプトが好評価を受けており、今回の事業依頼につながりました。

今回の研修事業は全国組織の医療職団体に、ケア・カウンセリングのコンセプトを広める好機として、大いに頑張りたいと思います。

報告3、茨城県社会福祉協議会 ON LINE 開催（7月4日/12月5日）

「利用者・支援者/共に元気になる対人学」コロナ禍のなかで、通常の対人研修が困難となった茨城社協様で、協会から品川講師がON LINE 研修でケア従事者への講演を実施しました。5月に引き続き、連続講座として「臨床死生学」が年末にも開催されます。

報告4、千葉県流山市役所講演対面及びON LINE（ZOOM）研修（5月）

千葉県流山市の全市のケア従事者を対象に、市役所健康福祉部介護支援課が主催の介護保険施設職員向け「高齢者虐待防止研修」が、管理者向けの対面研修および市内全施設職員対象のONLINE 研修が開催されました。ケア・カウンセリングのコンセプトが、虐待防止の原理として、地方公共団体で認知された最初のケースです。これを基盤に、今後とも波及に努めたいと思います。

報告5、岩手県看護協会（ON LINE 研修）（9月3日）

コロナ禍のなかでのON LINE 研修でしたが、未来の看護部長を目指す受講生の意気込みは高いものでした。ケアリング業務をより高いレベルで見直したいとするスーパなセルフ・モニタリングの意義が、ケア・カウンセリングの研修を通して、検討されました。「岩手県の看護師長さんはケア・カウンセリングに明るい」という伝説がうまれたかも（？）

報告6、群馬県児童施設連絡協議会の職員研修に、品川代表が講演（9月9日）

何らかの事情で保護者の養育を受けられない子ども達のための施設として「児童養護施設」があります。おそらく、今年度で品川が講演をした研修で、最も印象深い講演会のひとつでした。受講されているスタッフの方々の深層演技が伝わってくるのです。最後に講演の講評をされた主催者側の先生は、言葉になりませんでした。彼女の胸に去来した子ども達の思いがあふれ出てしまったのです。共に歩みたい、そう思える会でした。

報告7、精神障害者家族会「フレッシュ厚木」講演（6月25日）

全員がマスクでの対面研修でした。参加されたご家族の切なく熱い思いが伝わる暖かな家族会でした。講師が恒例とするフィードバック・レッスンには、皆さんは戸惑いながらも、笑い声が絶えない研修となりました。最後に質疑応答では、深刻な悩みとけして諦めない希望の言葉がシェアリングされました。

精神障害者の家族会は、講師が最も力を入れる講演会です。

報告8、札幌学院大学コミュニティーカレッジ（ON LINE 研修）

大学の公開講座として、「自他境界の越境」について、品川講師が講演をしました。この市民講座は、ケア・カウンセリングの理論を、医療関係者でなく、一般市民の皆さんに講演する意味で、大切なプログラムです。難解な専門知識ではなく、「分かりやすいがホント」の知識として、ケア・カウンセリングを洗練させたいと講師は願っているからです。しかしながら、ON LINE 研修の為、ややもすると一方通行の講義であるが故に、難解となる印象を否めませんでした！さらに「わかりやすさ」に努めたいと思います。

報告9、企業にコンプライアンス研修を実施しました。（8月23日）

NHK「紅白」にも歌手を送っている中堅の芸能プロダクションの社員を対象に実施。今後、コンプライアンス研修の需要は医療・福祉エリア以

外にも大きな潜在市場であり、協会研修の新たな開発エリアとして見込めると思われます。

報告10、昨年度に続き、協会功労賞は、中道尚美さんに決定いたしました。コロナ禍のなかで、協会 ON LINE 研修システム運営に尽力された功績を高く評価し、賞品と賞状をお渡しします。

報告11、ON LIEN 研修に参加が難しかった会員への優遇措置
協会研修のON LINE 化により、この間、対面研修しか参加が難しかった会員は、研修の機会が得られなかった事実があります。そのデメリットを補償する対応を検討します。

報告12、コロナ禍の特別措置として、研修チケットの有効期間を延長します。対面研修が再開できて、一定の期間の延長を実施します。

(以上)

オンデマンド配信（会員には無料配信）の開始に伴い、電子メールにてご案内しています。連絡先情報の変更などございましたら、下記フォームに入力し送信をお願いします。

<https://forms.gle/j91EWUqKbv3PNPQY9>



NPO 法人日本ケア・カウンセリング協会事務局（カスタマー・センター）
〒 107-0062 東京都港区南青山二丁目2番15号 ウィン青山942
電話 03-6403-7495 FAX 03-6893-3931
npo-jcca@npojcca.org （協会メールアドレス）
<http://www.npojcca.org> （協会 HP）
<https://jcca2000.jimdofree.com/> （ON LINE 研修）